



団体名 亀城小学校の避難所運営を考える会

事業名 亀城小学校避難所運営マニュアル作成と訓練 [令和2年度まちづくり活動]

事業の紹介



補助金額 20 万円 / 総事業費 47.6 万円

亀城小学校を避難所とする自治区は西部・中部・熊の3地区にまたがり、災害時には、異なる地区の人達が協力しながら避難所運営・利用していくことになります。

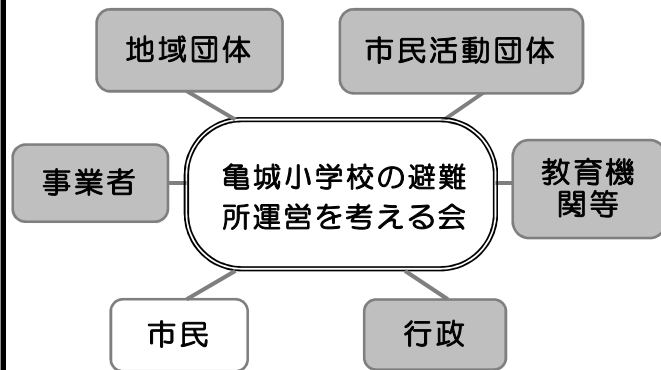
災害時に避難した住民の安全確保のためには「自分がやるんだ」という能動的な思いで、避難所利用について学校、地区の住民、行政と情報共有しておくことが重要になります。

「かりや夢ファンド補助金」は、①誰もが対応可能な共通かつ明快なカスタマイズされた避難所マニュアルの準備、②有事にそなえ実際に開設・運営訓練と避難訓練の実施を継続していく仕組みづくりに活用しました。



ただ今、勉強会。

協働の役割分担



地域団体	刈谷西部・中部・熊地区の地区長・公民館長・組長、婦人会、子供会、防災リーダー、自主防災会 〈マニュアル検討〉
市民活動団体	赤十字奉仕団 〈マニュアル検討〉
事業者	(特)愛知ネット 〈アドバイザー・マニュアル制作〉
教育機関	亀城小学校校長・教頭・避難所開設員 〈会場提供・マニュアル検討〉
行政	市議員・刈谷市危機管理課 〈マニュアル検討〉

取組みの流れ

こんな想いでスタートしました

ほとんどの人は「避難所は被災時にお世話をしてもらう場所」と思っています。しかし現実には、開設まではされませんが、運営は自分たちでしなければなりません。亀城小学校を避難所にする西部・中部・熊地区の住民間で、避難所運営を考えていく必要があります。異なる地区の住民が協力体制を持つために、愛知県や刈谷市のものを土台として亀城小学校に特化した避難所運営マニュアルを作成し、継続的な訓練しておく必要があると考えました。

こんな準備をして取り組みました

まず避難所の亀城小学校長に地区の考えを伝え、避難所マニュアルの作成について一緒に行う合意を得ました。避難所を運営するためには、災害対応に詳しい自主防災会、行政、ボランティア団体等の協力を得ながら、利用する住民で役割を分担する必要があります。亀城小学校を避難所とする地区の住民が合同で避難所運営するための事業説明会を開催することで、参加者全員の賛同を得て会を発足しました。

こんな点を工夫しました

多くの住民が関われるよう、月1回、定例会を開催。住民へ広く周知されることを目標に、地区役員が任期終了後も継続するよう長期に渡り計画を立案しました。マニュアルは組織名等を実際に自分達のものに変更（自治会長→地区長）し、より自分達の地域を意識できるように配慮しています。自分事としてとらえられるよう、グループ討議を多く取り入れました。

- 「まちづくりコーディネーター」は、刈谷市民のまちの課題を「自分ごと」と考え、取り組んで行くために、参加のよびかけ・対話・活動の運営をお手伝いしています。



- ★「かりや夢ファンド」は、刈谷市民が「刈谷のまちをよくしていく」活動を応援する補助金制度です
【問合せ】 刈谷市役所 市民協働課 TEL0566-95-0002 詳細は市ホームページをチェック！>>

こんな活動をしました！

日時：2021年3月16日（火）19時00分～20時00分 【毎月1回定例会開催】

場所：亀城小学校 図書館

参加者：19名 うち運営者（1名）

- ・ 亀城小学校を避難所とする地区の住民、市議、団体代表が集まり、「亀城小学校避難所運営マニュアル」を作成するため、より現実に沿った避難所運営を考える会を開催しました。
- ・ 被災地へボランティア活動経験のあるNPO法人 愛知ネットの内藤遥さんの進行により、災害時に起きうる懸念事項について、避難所に人が来るまでの動き、地震による倒壊だけでなく、津波などの水害なども想定し、発生時間帯なども含め、いろいろなケースを想定して意見交換をしました。
- ・ 学校・地区・防災担当者など、異なる立場からの意見が、安全・安心な避難所運営への意識を高め、今回はフローチャートの作成などにつながった話し合いになりました。

現場の様子

こんな効果が生まれました

- ・ いろいろな地域・立場、被災の歴史や防災の知識など背景の異なる人が話し合うなかで、影響し合いシナジー効果を発揮し、より現実に即したマニュアルになりつつあります。
- ・ 自分達で災害時の状況を想定したことで、幼児から高齢者など、リスクが高い人への対応など、思いやる気持ちが形となり、より安全に向けた、良いマニュアルを作りたいたいという、意識の高まりにつながっています。

こんな課題がありました

- ・ 台風・震災等、災害によって対応方法が異なること、学校としての機能を優先することで、敷地内での避難場所が変わる等、意見が出ました。これらに対応する必要性から避難所開設マニュアルの作成が広範囲になり、検討時間を多く要します。
- ・ 感染症対策した避難所運営などを含め、更に状況に応じたマニュアル作成の必要性が分かり、各地区版のフローチャート作成など、更なる検討課題が出てきています。

今後に向けて

- ・ 発足時のスケジュールでは、今年度中にマニュアルに沿った訓練の開催を予定しましたが、コロナ禍の影響から勉強会が5回中止となり、計画から少し遅れました。
- ・ 毎回、たたき台のマニュアルを基に丁寧な話し合いが重ねられ、内容的には満足のいくものになっています。
- ・ 訓練の場になっても作成したマニュアルは随時見直しをはかり、知っている人を増やすことが目標です。

参加者の声

- ・ ストーリーに沿った会合のため、大きな混乱もなく話し合いが進むのでとても参加し易いです。自分ごととなりすぎて内容が細かくなりすぎることもあります。
- ・ いろんな立場・地区のひとの意見を伺うことができるのでとても現実的な話し合いとなっています。
- ・ みんなで取り組めば、活動自体が自分達の災害時のチェックにつながるので、意見を出し合うことは良いことです。
- ・ 4月以降も、続けて活動していきたいです。

主催団体の声

- ・ みんなが自分ごととして参加しているのでとても真剣に取り組んでいます。
- ・ 経験のある人が引っ張るかたちで全員のスキルアップを実感します。

取材を終えて…まちコの感想

- ・ 参加者のかたが全員自分ごととして意見を出される熱量がとても高く、圧倒されました。いろいろな立場から出た違った考えを議論から共有していく真剣さは市民活動のお手本のようで、うらやましい気持ちで拝見しました。（岡 由香）
- ・ 災害発生時でも、被災者ゼロを目指され、地域で住んでいる者同士で助け合える体制を作られる活動を目の当たりし、感服しました。地域の特徴をつかみ、災害をシュミレーションして、自分でやれることを考える。命を守るために本当に大切な事だと思いました。（松浦章子）